

交通政策論

担当者 松尾 俊彦

開講時期 後期

単 位 2

●講義の概要

20世紀に世界を席卷したクルマ社会は、公共交通の充実や地球温暖化、さらには高齢化社会を迎えたことから、変化を余儀なくされている。また、今日の規制緩和の流れは、交通分野に様々な影響を及ぼしている。

このような時代を自覚しつつ、総合的な交通政策はいかにあるべきかを追究する。

●講義の到達目標

自動車、鉄道、航空などの交通諸分野における政策を修得し、地域的な交通政策の立案能力や交通問題の解決能力を身につける。

●講義計画

第1回：本講義の目的と概要

第2回：交通政策の手段と主体

第3回：市場の失敗と政府の失敗

第4回：都市内交通問題と対策（渋滞と公害、制御）

第5回：都市間交通問題と対策（時間克服、新幹線と在来線）

第6回：航空政策と空港問題

第7回：地方交通問題と対策（過疎化、買い物難民、コミュニティバス）

第8回：離島交通問題と対策（助成）

第9回：道路政策（一般道と高速道路、割引や無料化）

第10回：規制緩和の必要性和功罪および経緯

第11回：規制緩和の事例（バス、タクシー）

第12回：安全と事故

第13回：環境問題

第14回：費用負担のあり方

第15回：社会資本整備のあり方

●成績評価基準と方法

授業に対する積極的姿勢（質問、意見表明など）を60%、レポートを40%として評価する。

評価の基準としては、交通諸分野における政策の特徴や残されている課題を理解していることや自身の意見を明確に述べることを重視する。

●テキスト又は参考文献

参考文献として西村弘『脱クルマ社会の交通政策』ミネルヴァ書房 2007年

その他の参考文献は適宜紹介する。

●受講上の留意点

高速道路料金の割引率の変化、ローカル線の廃止、羽田空港の国際線化など、わが国の交通政策は変革期にある。討論の時間を多く持つので、積極的に参加して欲しい。